

広報

# かつやま

Katsuyama City Newsletter



9月号

No.551

平成13年9月13日発行

秋風に揺れる  
いい日 秋桜

CONTENTS

ふれあい市民フォーラム

恐竜のまちサミット

Hot・話題

出会い ふれあい

(9/5 野向町薬師神谷)

# 出身者ら 勝山復興にエール

## ふれあい市民フォーラム



勝山市出身者らが集い、市民との交流を通してふるさと勝山の活性化について語る「ふれあい市民フォーラム」が、8月11日、勝山市ふれあい交流館「勝山ニューホテル」で開催されました。東京勝山会、関西勝山会、京都福井県人会奥越支部の会員20人と、市民約90人が参加。「交流から広げようふるさとルネッサンス」ふるさとの魅力を再発見II」をテーマに、意見交換が行われました。山岸市長はあいさつで、「交流の一つひとつが勝山の力になる。交流を長く続け、活性化へとつなげていきたい」と述べ、ふるさと勝山復興への協力を呼びかけました。

フォーラムのパネラーには東京勝山会の山内高嘉さんと、関西勝山会の木下信義さん、安居早苗さんの3人に山岸市長が加わり、ルネッサンス委員会の荒井由泰さんが進行を担当しました。登壇者からは、「勝山の魅力に自信をもってほしい」など、勝山復興への意見や提案が出されました。フォーラムに参加した出身者らは、このほか平泉寺の見学や市民との懇談会でも、交流と情報交換を深めました。市とルネッサンス委員会では今後、出身者のデータベース化などをすすめ、幅広い交流と事業展開への環境づくりを予定しています。

### パネラーの メッセージから

勝山は水がおいしい。21世紀は水、人情をたいせつにして、市民の結束力をもって活力を求めてほしい。物作りもたいせつだし、心もたいせつであると思う。認められていることに自信をもってほしい。



水と心をたいせつに  
関西勝山会会長 木下信義さん

福井県は多くの点で全国の上位にある。勝山はすばらしいので自信をもってほしい。過疎化するのは若い人が定着しないからである。やはり企業誘致をしていかなければならないと思う。



若者定着に企業誘致を  
関西勝山会副会長 安居早苗さん

「かつやま」に自信をもって

ルネッサンス

# Renaissance

## ふるさととの魅力再発見

勝山を活性化させようという気持ちが必要だと思ふ。勝山に愛着がなくては、情報を発信することは無意味だと思ふ。川にたくさんのがみが落ちてくる。岐阜県の高山のようにきれいな勝山にしてはどうか。



### 自然環境をたいせつに

東京勝山会副会長 山内高嘉さん



「食や工業に関する素材を掘り起こして、物産館を開いて、勝山市をPRしてはどうでしょうか。」

神奈川県 山端雅夫さん



「新婚旅行以来34年ぶりに平泉寺に来ました。当時とほとんど変わっていないことがうれしかったです。」

京都府 後藤清見さん・早苗さん



▲観光ボランティアの案内で平泉寺を見学する出身者ら



### 「恐竜づくしの旅」

県外親子ら  
恐竜王国を満喫

ふるさとルネッサンス事業の一環として企画された「親子で恐竜づくしの旅」が8月5日に行われ、県内外から親子13組36人が参加しました。杉山の発掘現場を見学したあと、杉山分校で化石の発掘体験をしました。参加した子どもたちはお父さんやお母さんといっしょに、たがねとハンマーで石をたたき、化石探しに夢中になっていました。

「7月に恐竜博物館に来たけど、化石探しをしたくてもう一度やってきた」という親子や、「インターネットで見ても申し込んだ」といった家族連れもいました。昼食のあとは恐竜博物館を訪れ、特別展などを見学。「恐竜王国」の夏を満喫していました。

### エコミュージアム シンポジウム

山形県朝日町エコミュージアム協会(NPO)の松田事務局長など、5名のパネラーを交えて市民のみなさんとともに、市民が主役となる新しいまちづくり運動「エコミュージアム」について考えたいと思います。多数ご参加ください。

とき 10月9日(火)午後6時~9時  
ところ 教育福祉会館1階大ホール  
主催 勝山市、勝山青年会議所  
参加費 無料  
問合先 未来創造課未来政策係

(☎内線233番)

北海道穂別町

長野県小谷村

# サミット IN 勝山

14自治体  
4団体

群馬県中里村



岐阜県白川村

岐阜県荘川村

富山県大山町

福井県和泉村

福井県大野市

## 共同宣言で交流約束

恐竜化石が発掘されている地域のまちづくりを考える「恐竜のまちサミット-IN勝山」が、8月26日に開催されました。北海道穂別町や長野県小谷村、熊本県御船町など、全国から14の自治体と4つのまちづくり団体が参加。分科会とサミット会議を開き、「恐竜サミット連絡会」を設置することを盛り込んだ共同宣言を発表しました。



▲濱田館長らのオープニング対談を熱心に聞く参加自治体の首長ら



オープニング対談・分科会助言者  
漫画家 ヒサクニヒコ氏

オープニング行事として、県立恐竜博物館の濱田隆士館長とヒサクニヒコさん、そして山岸市長が、「私たちの夢・恐竜とまちづくり」と題して対談を行いました。会場の教育福祉会館には、市民や恐竜ファンら約300人が集まりました。

濱田館長は、「恐竜を通して、子どもたちが自然に帰り、体験できる場をつくり、生涯学習などに活用してほしい。それぞれの地域性を生かし、個性あるまちづくり

につなげてほしい」と提言。ヒサクニヒコさんは、「恐竜の町おこしと恐竜ファンの子どもの思いにはギャップがある。楽しさと正しく恐竜を伝えることが必要。来た人を楽しませるまちづくりを目指してほしい」と話しました。

また山岸市長は、「恐竜博物館に来館する多くの人に、勝山市内をもっと知っていただけるよう努力したい」と、恐竜を生かしたまちづくりへの意欲を述べました。

大野地球科学研究会

熊本県御所浦町

熊本県御船町

阿波勝浦井戸端塾  
(徳島県勝浦町)

# 恐竜のまち

= 恐竜化石発掘地交流会 =

分科会では、「恐竜を活かしたまちづくり」と「恐竜を楽しむまちづくり」の2つのテーマに分かれて、事例発表と意見交換が行われました。群馬県中里村は、モンゴルと協力して恐竜によるまちづくりをしている事例を、三重県鳥羽市「鳥羽恐竜研究振興会」は民間組織による活動を紹介しました。各代表が集まって開かれたサミット会議は、山岸市長が議長を務め、今後の交流のありかたなどを話し合いました。この席上で、ホ



## サミット連絡会を発足

ホームページ作成と次回のサミット開催（時期は検討）を確認。「恐竜サミット連絡会」を設置し、自治体レベル、住民レベルの交流を深めていくことを盛り込んだ共同宣言を発表しました。今回のサミットの開催に当たっては、「恐竜王国勝山推進市民会議」のスタッフが中心となって企画運営にあたりました。



▲サミット会議



▲サミットの前に県立恐竜博物館を視察する参加者

三重県鳥羽市

鳥羽恐竜研究振興会

石川県尾口村

石川県白峰村

「恐竜王国勝山」推進市民会議

勝山市



オープニング対談・  
分科会助言者

濱田隆士氏

# アスペンで海外体験

市内中高生

平成7年から毎年相互に受け入れているアスペン市との青少年交流事業で、今年は勝山市の中高校生11人が7月31日から14日間、アスペン市を訪問しました。生徒たちはアスペン市で同年代の生徒のいる家庭にホームステイして、ハイキングや川下りなどを通じて交流を深めました。

英語があまり話せない生徒たちもすぐに打ち解け、積極的に英会話に挑戦したり、身振り手振りで意思を伝えたりするうちに、兄弟のように仲良く活動ができるようになりました。

世界を代表するリゾートの町での体験は、生徒たちの心に大きな思い出として残り、将来への貴重な糧になったようです。



勝山もアスペン同様に、自然を守っていくために人々が協力していくべきだと思いましたが。

ごみが落ちていたとしても拾いに行つてごみ箱に捨てるという簡単そうでも難しいことを、アスペンの人たちは苦もせずに成し遂げているのを見て、街がきれいなのも、この人たちの心がきれいだからと感じました。

まちをきれいにする心

和田 佳子

## 参加者の感想から

若い人がもっとと交流を

柳原 絵里子

普通に買い物をするときに使うお金も違うし、普通にホストファミリーと話をすることも英語を使う。あたりまえのことかとても難しく、とてもたいせつなことだとわかった。

アスペンのことを紹介し、興味をもってもらうって、若い世代の人もアスペンともしっかりと交流できたらよいと思います。



私の目から見た **日本**  
by.エリック



## アスペン・メモリー

「必ず帰ってこれるさ。今度は頑張つて自分の力で帰ってくればいいじゃない」。アスペンを去る時、私はこのように青少年の参加者を慰めていた。アスペンをたつ飛行機の中で涙を止められなかった高校生は、2時間後にはすっかり気を取り戻して、元気よく「また絶対アスペンに行く！」と私に語ってくれた。

2週間は早い。アメリカ合衆国コロラド州アスペン市で2週間のホームステイを行った青少年は、限られた短い時間に思い出をいっぱい詰め込み楽しんでいた。1日目ですっかり打ち解けていた子どもたちは帰るときには涙を流し、また会う約束を交わしていた。

私もさすがにこの子どもたちの力の発揮振りに感動した。なにも恐れず試してみる心構え。英語恐怖症は初めからなく、お互い同士の会話は絶えなかった。子どもたちにとっては、この2週間がどのような思い出になったのだろう。子どもたちにとってこの2週間が何かのきっかけになれば、この交流は成功のうちに終わったと言いきれる。彼らの中ではアメリカに戻りたい夢はすでに芽生えているはず。その成長は本人次第によって変わってくるもの。

「エリック兄ちゃん、遠くからでも応援してるぜ。」

市国際交流員 エリック・高志・ギブス



▲スキージャムにて

# アスペン音楽祭2001

～市民合唱オープニング飾る～

かつやま音楽交流協会などが主催する「かつやまアスペン音楽祭2001」が、市民会館を中心に、8月22日から25日まで開かれました。



◀アスペン音楽祭児童合唱団

22日は、市内の児童と市民でつくる合唱団がそれぞれ、声高らかに歌い音楽祭のオープニングを飾りました。また、アスペン市を訪れた市民訪問団と青少年交流に参加した中高生たちが、交流の成果について写真で訪問の様子を紹介しながら説明をしました。

23日には、アスペン音楽スクールの教授ら5人で編成する「アスペン・アンサンブル」が、スキージャム勝山のホテルでミニコンサートを開き、来館者はリゾート気分を満喫。24日に市民会館で行なわれたメインコンサートでも、多くの市民が一流の調べを堪能しました。

## 広がる国際交流

25日にはバイオリンやピアノの公開指導のほか、昨年開館した県立恐竜博物館の講堂でもミニコンサートが開かれ、この日訪れた恐竜サミットの参加者を歓迎しました。

ロシア連邦沿岸地方青年訪日団の15人が、8月23日・24日の両日、勝山市を訪れ、市民と交流を深めました。22日には遅羽農村改善センターで、地区の人たちといっしょにもちつきやそば打ちを通して、日本の食文化に触れました。

### ロシア青年 そば打ち、太鼓で交流

「ロシアではそばの殻を取って煮たり炒めたりするが、麺にして食べる習慣はない」と、初めてのそば打ちに緊張気味。言葉は通じませんが、見よう見まねで練り上げ、麺にするまでの手順をひと通り体験しました。打ち上がったそばは、地区の人たちがおろしそばにしてもてなす、中にはお代わりをする青年も



いました。

午後には、地区の子どもとおとなで奏でる三室太鼓で歓迎。ロシアの青年たちも、ばちを持って和太鼓でさらに交流を深めていました。

訪日団の一行はこの日、市街地で開かれていた祭にも出かけ、日本の「縁日」を楽しみました。





# ウォーキング熱 上昇中



識を知ってもらおうと企画された「栄養講座&ヘルシーランチ」には、144人が参加。講師の天谷祥子先生から、野菜をおいしく食べるコツやアイデアなどについて指導を受けました。また、野菜を使った食事やデザートを食べ、健康を意識した食事について知識を深めていました。

同事業は10月14日にチャレンジ記録表を回収し、ウォーキング効果の測定を行います。最終日に向けて、継続してウォーキングにチャレンジしましょう。

6月から始まった健康チャレンジのウォーキングは、関連イベントにもたくさんの方が参加するなど、ウォーキング熱が高まっています。

8月5日に長尾山総合公園で行われた「ふれあいウォーキング」には230人が参加。早朝6時30分に集合し、早い人で30分、ゆっくりの人で45分ほどかけて、1周約3キロのコースを思い思いのペースで歩いていました。このほか、参加ポイント対象事業に指定されている猪野瀬地区の「大師山登山」や村岡町の「かち山ちようちん登山」には、例年より100人ほど多い参加者が集まりました。

また、健康のための正しい食事の知



▲144人が参加した「栄養講座&ヘルシーランチ」

## 電気の使用と 温暖化ガス排出との関係

電気は使用するときには直接二酸化炭素を排出することはありません。しかし発電される際、その50%以上は石炭、天然ガスといった化石燃料に頼っています。電気の使用量はほんの少しの努力で減らせます。

### 簡単にできる省電力法

#### 冷蔵庫

日ごろから冷蔵庫の整理をして、物を詰めすぎないように心がけると年間

CO<sub>2</sub>排出量 約 88kg 削減  
電気料 約 6,380円 節約



#### 照明器具

蛍光灯の使用量を1日1時間減らすと1灯あたり1年間

CO<sub>2</sub>排出量 約 10kg 削減  
電気料 約 700円 節約



#### 冷暖房器具

エアコン(冷房)の使用時間を1日1時間減らすと1ヵ月

CO<sub>2</sub>排出量 約 7.3kg 削減  
電気料 約 520円 節約

エアコン(冷房)の設定温度を1℃控えめにすると1ヵ月

CO<sub>2</sub>排出量 約 5.8kg 削減  
電気料 約 410円 節約

こたつの設定温度を高から中へ下げると1ヵ月

CO<sub>2</sub>排出量 約 4.5kg 削減  
電気料 約 330円 節約



電気編



## 平泉寺の苔を守ろう

### 市民ら清掃奉仕

勝山を代表する観光地「平泉寺」の苔を守り、観光客にきれいな境内を見てもらおうと、市観光協会会員や観光ボランティアら約50人が清掃奉仕を行いました。

8月5日の早朝6時に集まり、朝露でしっとりとした苔の間に生えた草をていねいに取っていました。当日参加した市民も加わり、大杉から落ちるスギの葉なども拾い集めていました。

この作業奉仕は、毎年、夏の観光シーズンにあたるこの時期に実施しています。



## 仮装行列

### 「谷はやし込み祭り」



北合町谷地区で、旧盆の8月16日、「はやし込み祭り」が行われました。お殿様や天狗、だるまなどさまざまに仮装した一行が、笛や太鼓の音に合わせ、近くの神社に向けて練

り歩きました。

照りつける日差しの中、沿道には約200人の見物客が押し寄せ、ユニークな行列に歓声を上げていました。

神社では、三番叟や神楽が奉納され、盛んに拍手が送られました。

「はやし込み祭り」は、五穀豊穣を祈って江戸中期より始まった伝統行事で、昨年、谷地区出身者らでつくる「はやし込み保存会」により復活しました。

## 長寿祝い慶祝訪問

「敬老の日」を前に、9月4日から3日間の日程で、山岸市長が米寿を迎えたかたのお宅を訪問しました。

昔、洋品店を経営していたという中村秀雄さんを訪ねた山岸市長は、お祝い状と記念品を渡し、「これからももっと元気で長生きしてくださいね」と声をかけました。

中村さんは3年前まで趣味の鮎釣りに出かけていました。「人間何かしていないとね」と、最近では畑で野菜作りをしながら、ゆったりとした生活を楽しんでいます。イチローの野球観戦も楽しみの一つだそうです。



今年市内で米寿を迎えたかたは、男性24人、女性73人の97人です。市では、90歳以上のかたにも祝い金などを贈りました。

# HOT・話題



# 電車存続署名 市内31,527名

県下6万2千名分 福井県知事に提出

## 『電車存続署名』市町村別集計

地区名		署名数(名)
勝山市	勝山市区長連合会	31,527
福井市	東藤島地区自治会連合会	1,858
	啓蒙地区自治会連合会	2,093
	明新地区自治会連合会	5,076
	河合地区自治会連合会	692
松岡町	松岡町区長会	5,238
上志比村	上志比村区長会	3,152
三国町	三国町区長会連合会	12,792
永平寺町	(現在継続中)	200
合計		62,628

県民生活部長に署名を手渡す滝川会長



勝山市区長連合会が7月から集めてきた電車存続を求める署名は3万1527名になりました。県下各自治体の合計数は6万2628名で、これらの署名と存続に関する要望書を9月6日に福井県知事と県議会議長に提出しました。

市区長連合会等が集めた署名の内訳は、各地区で集められたものが2万1200名(6038世帯II全世帯の79%)、福井駅前等で行った署名活動によるものが2027名でした。署名の合計数3万1527名は沿線自治体の中で最も多く、勝山市民の電車存続への気持ちの大きな表れとなりました。ご協力ありがとうございました。

9月6日には滝川区長連合会長と沿線自治体の代表者らが県庁で、知事に代わって対応した市橋県民生活部長と、県議会の西村議長に署名と要望書を手渡しました。県民生活部長は「みなさんの熱意をじゅうぶん伝えます」と答えました。

市では今後、も区長会と連携して電車存続に向けて取り組みを進めます。ご協力をお願いいたします。

## 市町村合併シンポジウム

### 住民とともに考える環境づくりを

今後の市町村合併のあり方について考える「市町村合併シンポジウム」が9月2日、大野有終会館で開催されました。西九州大学教授の坂田期雄氏の基調講演のあと、奥越2市1村の首長と青年会議所の代表らが登壇し、「新しいまちづくりと市町村合併」と題してパネルディスカッションが行われました。

登壇者からは、市町村合併について行政と住民がいっしょに考えていかなければならないとの意見が出され、その中で山岸市長は、「住民の意識の高まりと醸成が必要」と、慎重に取り組む必要性を訴えました。さらに合併パートナーについては、柔軟に考えるべきであるという意見を述べました。また、勝山青年会議所の中西理事長は、「市町村合併について理解している人は少

ない。市民にもっと情報を提供してほしい」と述べ、市町村合併を考えることのできる環境づくりを求めました。市では、市内に市町村合併に関する政策研究会を設置するとともに、今後市民との意見交換の場やシンポジウムなどを開いて、市町村合併について市民のみなさんとともに考えていきます。



## 防火・救急活動へ意を新たに

### 消防本部40周年

市消防本部・署発足40周年記念式典が、8月12日(日)、教育福祉会館で行われました。山岸市長は「今後も消防機能の向上に努めていきます」

と式辞を述べ、消防署員らは防火・救急活動などに取り組む意を新たにしていました。

式典後、サンプラザ前駐車場では、

# 夏まつり



勝山夏祭りは8月12日・13日・14日の3日間、元禄線を中心に繰り広げられました。今年は、勝山市消防本部・署発足40周年と勝山商工会議所創立50周年を記念してカーパレードなどが行われ、にぎやかさを増しました。

納涼みこし大行進では、おとなみこしと子どもみこしが街中を練り歩き、氣勢をあげました。



消防本部・署発足40周年を記念して行われたマーチング演奏



公立保育園児によるかわいい遊戯や消防音楽隊のドリル演奏などが行われ、観衆からは盛んに拍手が送られていました。また、消防署員による防ぎよ訓練も行われ、市民らは、てきぱきとした救助作業に注目していました。

引き続き元禄線から消防音楽隊を先頭にカーパレードが行われ、勝山夏祭りのオープニングに花を添えました。



勇壮な演奏を披露した子ども太鼓

消防本部・署発足40周年記念式典



# がんばれ元気



## 泳げるようになったよ

小寺美妃菜ちゃん(10)  
=郡町2丁目=

小寺美妃菜ちゃんは、8月20日に開催された市少年少女水泳記録会に出場し、クローリングで25メートルを泳ぎました。

「ばた足」しかできず、水泳は苦手なほうでした。でも、7月24日から始まった学校の「泳げない子のための水泳練習会」に参加して、苦手を克服を目指して特訓を開始。最初は息継ぎができません、鼻や口の中に水が入ってつらかったといいますが、前中は練習会に、午後も時々プール開放に通いました。そのかいあって、1週間ほどで25メートルを泳げるようになった。

水泳大会当日、「泳げるかどうか自信はなかったし、不安だった。どきどきして緊張していた」といいます。『よいい、バーン』。合図と同時に必死に泳ぎ見事ゴール。「とにかく、うれしかった」と満面の笑みを浮かべます。

「今度は平泳ぎと背泳ぎが泳げるようになりたい」。美妃菜ちゃんにとって、大会参加が大きな自信につながったようです。

# 仲間 Group



## 子どもに夢と楽しさを 人形劇サークル「びっくり箱」

人形劇サークル「びっくり箱」は、ボランティアで人形劇や手遊び、歌などの公演を行っています。

練習の成果を発表する大きな公演は年2回。図書館で行われる「夏休み子どものつどい」と市民会館で行われる「みんな集まれ子供ランド」。そのほかに地区子供会や児童センターなど、依頼されれば随時公演を引き受けています。

15年ほど前、人形劇サークルとして活動していた「夢風船」の元メンバーたちが「いつかは復活させたい」と働きかけ、「びっくり箱」として5年前に再結成。名前は「何がでるか分からない楽しみ。みんなをアッと驚かせることをしよう」と付けられました。

現在、20代から50代の保育士や主婦、会社員など10人で活動しています。人形などは、古着や廃品を利用しての手作りで、脚本も絵本などをアレンジして作成しています。

「子どもたちは、人形劇にのめり込み、かけ声をかけてくれたりします」とと努力が実った瞬間を喜びます。

「夢は大きく全国公演ですが、福祉施設も回ってみたい」と話します。悩みは会員が少ないこと。「興味のあるかたは、ぜひサークルに入っしてほしい」と呼びかけます。希望のかたは、人形劇サークル「びっくり箱」代表山岸登美子(☎88-130034)さんまで。